福徳岡ノ場の火山活動解説資料（令和８年 10 月）

気 象 庁 地 震 火 山 部
火山監視・警報センター

2021 年８月下旬以降、噴火は認められないものの、引き続き、変色水域が確認されています。活発な火山活動は継続しており、今後も噴火の可能性があります。
福徳岡ノ場の周辺海域では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石やベースサージ（横なぐりの噴煙）に警戒してください。噴火による浮遊物（軽石）にも注意が必要です。
令和３年８月 16 日に噴火警報（周辺海域）及び火山現象に関する海上警報を切り替えました。その後、警報事項に変更はありません。

○ 活動概況（図２～３）

気象衛星ひまわりの観測では、噴火は確認されていません。
21 日に海上保安庁が実施した上空からの観測結果によると、福徳岡ノ場で長さ約 1000ｍにわたる黄緑色の変色水が認められました。

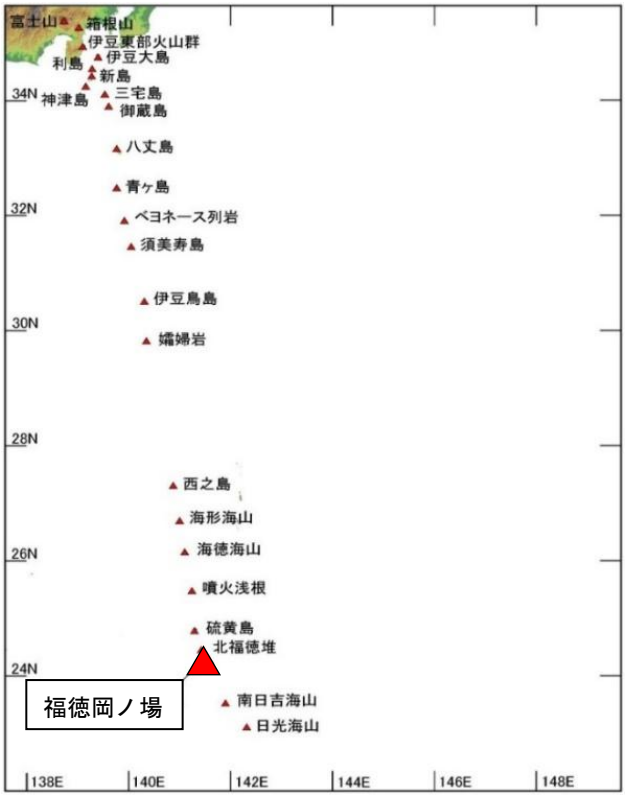


図１　福徳岡ノ場　伊豆・小笠原諸島の
活火山分布と福徳岡ノ場
地図は、日本活火山総覧（第４版）から引用。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページでも閲覧することができます。
https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php
本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。
https://www.jma.go.jp/jma/kishou/know/kazan/kazanyougo/mokuji.html
この資料は気象庁のほか、海上自衛隊、海上保安庁及び第三管区海上保安本部のデータも利用して作成しています。

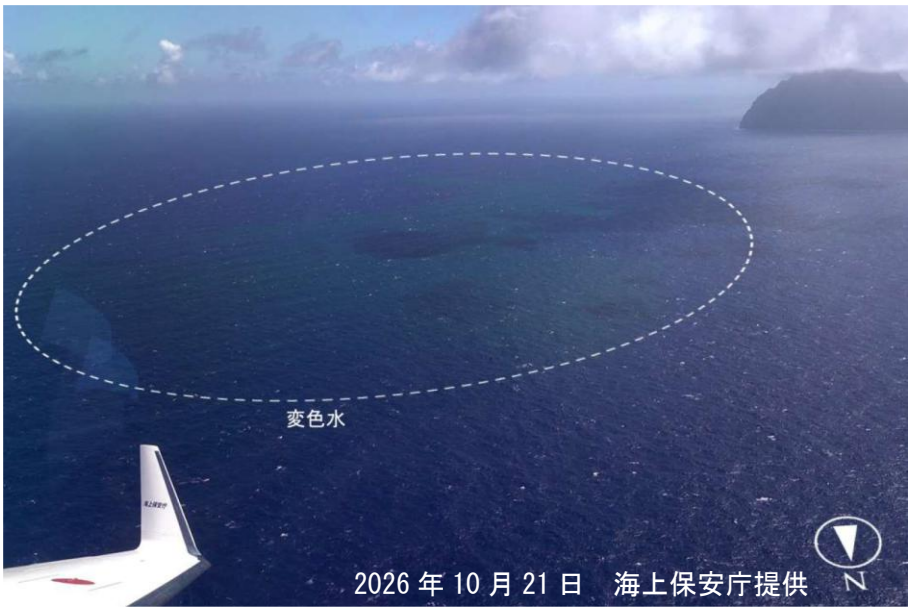


図２　福徳岡ノ場周辺の状況

・21 日に海上保安庁が実施した上空からの観測結果によると、福徳岡ノ場で長さ約 1000ｍにわたる黄緑色の変色水が認められました。

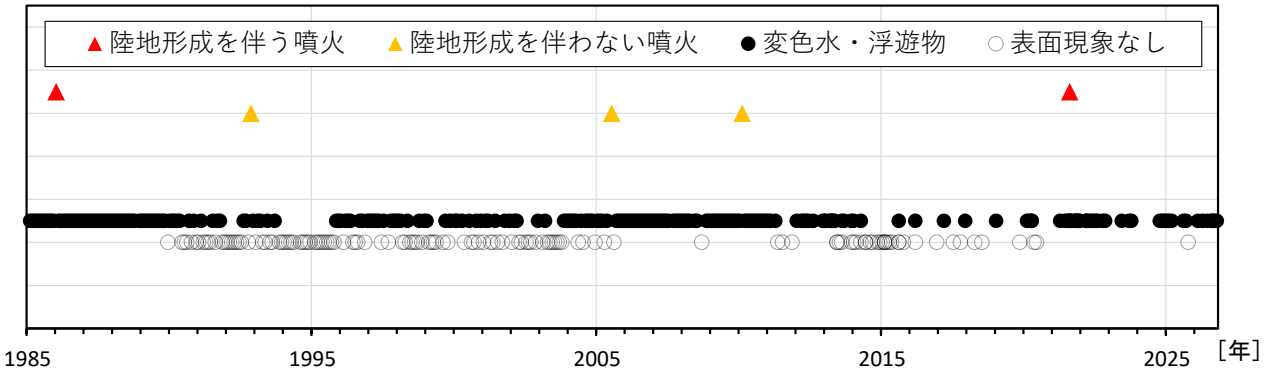


図３　福徳岡ノ場　1985 年以降の活動状況

シンボルがあるタイミングで観測が行われています。●は変色水域や浮遊物が認められた観測、○は変色水域を含め特段の表面現象が認められなかった観測、▲は陸地形成を伴う噴火が認められた観測、▲は陸地形成を伴わない噴火が認められた観測を示します。

海上保安庁、第三管区海上保安本部、海上自衛隊、気象庁の観測及び漁船、報道機関等の情報による。

・2021 年８月 13 日に海底噴火が確認された福徳岡ノ場では、過去にも数年間隔で海底噴火が確認されています。発生する噴火には、陸地を形成するような規模の噴火と、陸地を形成しないそれよりも規模の小さな噴火があります。
・1986 年にも噴火が発生し、新島を形成しましたが、海面上に姿を現す顕著な噴火は１月 18 日～21 日の数日でした。その後、３月 26 日には新島は消滅しています。
・2010 年２月３日に小規模な海底噴火、浮遊物、変色水域が認められた後も、長期にわたり火山活動によるとみられる変色水等が断続的に認められていました。